



獨協医科大学病院だより
Dokkyo Medical University

秋号

令和5年(2023年)

No.53

Hospital News

CONTENTS

診療科案内

(リウマチ・膠原病内科／リウマチセンター)

病棟紹介

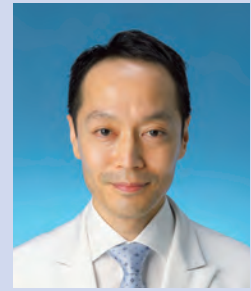
(教育医療棟8階病棟)

DPC制度について

(事務部入院課)

リウマチ・膠原病内科
診療部長 池田 啓

関節リウマチの診療が 進歩しています



リウマチ・膠原病内科／リウマチセンター 診療部長／センター長 池田 啓

関節リウマチとは

関節リウマチは、関節に炎症が生じ、痛みや腫れを来す病気です。手指・手首から始まることが多く、治療を行わないと軟骨や骨が痛み、関節が変形してしまいます。40-50代の女性に発症することが多いですが、男性も罹患し、幼児から高齢者まで、幅広い年代で発症し得る病気です。関節リウマチは、免疫の異常により発症すると考えられています。

関節リウマチの治療薬の進歩

関節リウマチの治療薬はこの20-30年で劇的に進歩しました。初期治療の中心となるのはメトトレキサートという薬剤であり、関節リウマチ患者さんの身体機能と生命予後を改善することが示されています。また、炎症を起こすサイトカインというたんぱく質や炎症細胞を直接抑制する、生物学的製剤と呼ばれる点滴あるいは注射の薬剤が登場し、主にメトトレキサートと併用することにより、より高い効果が期待できます。さらに近年、ヤーヌスキナーゼ阻害薬と呼ばれる内服薬が登場し、生物学的製剤で十分な効果が得られなかった患者さんにも効果が期待できる選択肢が増えました。

グルココルチコイドの役割

これら抗リウマチ薬の登場により、グルココルチコイド(副腎皮質ステロイド)の役割は大きく変わりました。以前は良い薬剤がなかったため、症状を和らげ

るためにグルココルチコイドを内服せざるを得ない患者さんが多かったのですが、現在は大きく減っています。グルココルチコイドの長期内服は、副作用や適切な治療の開始を遅らせることなどにより、中長期的には関節リウマチ患者さんの身体機能を低下させることが分かっており、グルココルチコイドの使用は短期間、あるいは局所注射に留めることが推奨されます。

より高くなった治療目標

関節リウマチの治療目標は、以前は症状を和らげることであったのですが、現在は炎症がほぼ消失している「寛解」という状態を目指します。寛解を達成し維持することにより、長期的に関節の変形・身体機能の低下を防ぐことができます。

早期診断・早期治療の重要性

治療が進歩したことにより、より早期に診断し、より早期に治療をすることの意義が高くなりました。腫れぼったさや、朝のこわばりを伴う関節痛を認める際には、早めに専門医を受診することが推奨されます。

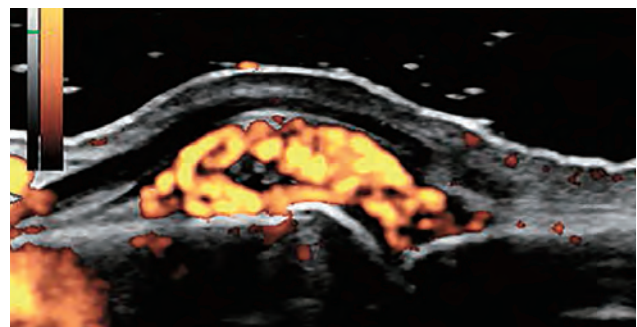
画像診断の進歩

治療の進歩に伴い、炎症を評価する方法も進歩しています。特に関節エコー(図)やMRIのような画像診断では、直接関節やその周りの炎症を見ることができます。また他の関節痛の原因を見分けることもでき、より正確な診断・評価が可能となります。

Bモード



パワードプラモード



図の説明：関節エコーで診る関節リウマチ患者さんの関節炎
Bモード画像では、骨と骨の間の滑膜と呼ばれる部位が炎症により腫れている(*)。パワードプラモード画像では、炎症に伴う滑膜の異常な血管・血流がオレンジ色のシグナルとして描出されている。

病棟紹介

教育医療棟8階病棟

病棟師長 小林 一葉

教育医療棟8階病棟は、リウマチ・膠原病内科21床、内分泌代謝内科22床、麻酔科3床の計46床の混合病棟です。

今回、リウマチ・膠原病内科の紹介をさせていただきます。

医師6名、看護師27名、看護補助4名、夜間補助アシスタント2名で対応しています。

リウマチ・膠原病内科では、関節リウマチ、皮膚筋炎、血管炎、全身エリテマトーデスなどの自己免疫疾患(本来なら体を守る免疫機能に異常が生じて自分自身の体の一部を攻撃してしまう病気の総称をいいます)の患者さんが入院しています。

治療として、免疫抑制剤、ステロイドなどの薬物療法が中心になっています。栄養や運動も治療の1つとなるため、看護師や医師のほかに、薬剤師、栄養士、理学療法士(リハビリテーション)の多職種で関わり、サポートしています。

看護師は、毎朝、ミニカンファレンスを行い、患者さんの治療方針の確認や必要な看護について情報共有をしています。患者さんのちょっとした変化や異常の早期発見をしていくために、日々専門的な知識、技術

のスキルアップに努め、そして、患者さんが安心して治療、検査が受けられるように心掛けています。

また、外来との連携を行い、情報共有していくことで入院から外来、外来から入院と継続した看護につなげられるようにしています。

患者さんやご家族が、この病院、病棟に入院して良かったと感じていただけるように患者さんの立場に立ち、思いに寄り添った看護をモットーとして、取り組んでいます。

スタッフもリウマチケア看護師の資格取得を目指し、頑張っています。



本館1階 外来



病棟ナースステーション
前列左から

1番目 小林

2番目 リウマチ・膠原病内科
池田診療部長

ほかスタッフ



当院は「DPC対象病院」です

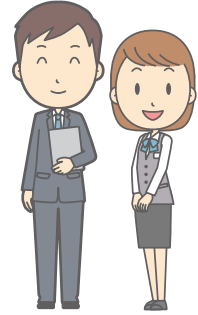
事務部入院課

DPC制度とは…

当院は、平成 15 年 7 月 1 日より厚生労働省の認可を受けて「DPC 対象病院」となりました。

DPC とは、病気の種類と診療内容によって分類された診断群分類 (4,726 種類) によって、あらかじめ厚生労働省にて定められた1日あたりの定額部分と出来高による部分が組み合わせられて入院診療費が計算される方式です。

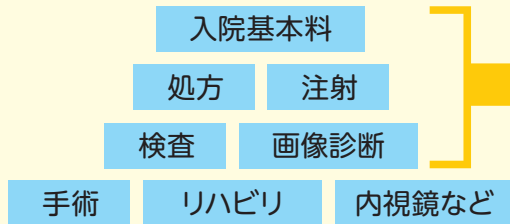
この制度は、患者さんの診療データを基に医療情報の標準化と透明化を目的として誕生したものであり、全国でも多くの病院が導入しています。



診断群分類に基づく1日ごとの支払い方式

※室料差額や食事療養費は別途

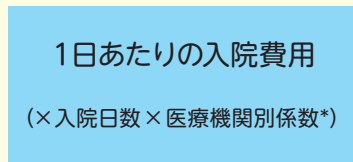
出来高計算方式



患者さんに行なった診療行為ごとに料金を積算したもので、「出来高計算方式」といい外来医療費はこの計算方法となります。

入院課では、入院患者さんの診療料金の計算や保険請求業務等を行っております。

DPC計算方式



「DPC計算方式」は、包括評価部分(処方・注射・検査等)は種類や回数を問わず、原則として1日あたりの定額医療費となります。

但し、手術・リハビリ等は「出来高計算方式」となります。

*医療機関別係数とは、病院の機能に応じて病院毎、月毎に定められる係数です。

看護師・薬剤師募集

当院では、看護師・薬剤師を募集しております。採用試験等については、ホームページ採用情報の職員募集サイトをご覧ください。

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880
獨協医科大学病院 庶務課職員係
電話 0282-87-2038
E-mail shokuin-b@dokkyomed.ac.jp
(受付時間:月~土 8:30~17:00)*休日除く



当広報誌は
当院ホームページより
ご覧いただけます。



獨協医科大学病院



<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

